

| | | | | |
|-------------|--------------------|----------------|-----------|------------------|
| 送 り 先 | MB (北陸) システム営業課 御中 | 丸善 (北陸) 営業課 御中 | 陸支 営業企画部 | 陸支 公共ビルシステム部 |
| | 七宝 システム事業部 御中 | NES 情報システム課 御中 | (富山) 電力部 | (金沢) 半導体・電子デバイス部 |
| | JMC 営業課 御中 | 北菱 情報機器課 御中 | FAシステム部 | FAシステム部 |
| | エム・アイ・エス 御中 | MCC (北陸支所) 御中 | 公共ビルシステム部 | 電子・情報通信部 |
| | 陸支 (富山) コ課 | | | |



陸支コ課 情報

N o 3 0

内容

- ・ O A 化について 第五回
- ・ 情報誌トピックス — 情報誌は発行責任者保管
 - 日経コンピュータ 4月3日号
 - 日経エレクトロニクス 4月10日号
 - 日経パソコン 4月10日号
 - 日経バイト 4月号
 - DOS/V magazine 4月15日号
 - PC WAVE 5月号
 - LAN TIME 5月号

ソフトウェアはSRCへ！
キャンペーンも随時実施中
詳しくはSRCニュースを

発行責任者

三菱電機株式会社 北陸支社
電子・情報通信部 コンピュータ課
稲崎義明

4. 電子メール

電子メールが、LAN導入の目的の一つとして導入され始めてきています。前にも書いたように、グループウェアとしての電子メールはLAN導入が始まったころにはまったくといってよいほど見向きもされないものでした。それが昨年の末から全社に導入しようという企業が10社を越えるような状況です。確かに三菱電機も全社導入を進めているのは、北陸支社を見てもよくわかります。しかし、以前の電子メールと比べて何か良くなっているのでしょうか。どこがどう違っているのでしょうか。

LAN導入の初期のころから、電子メールは現在と同じように存在していましたし、特別に使い易くなったものでもないように思います。たしかに、以前はDOS対応が中心で、この頃のものWindowsに対応してきていますが、現在インテックが販売している「ダ・ビンチ・メール」を筆頭に、日本でつくられたメールがいろいろありました。現在主なものになっている「cc:Mail」や「MS-Mail」などはまだ日本語化がなされてはいませんでした。その当時でもいろいろなものが選択できたと思います。しかし、全社で導入するどころか、特定の部署での導入もあまりなされてはいませんでした。それは、ただ単にその必要性がなかった、使いづらかったというその一言（二言か？）につきるように思います。

では、現在どうしてこのように急に導入されるようになってきたか。実際、ソフト的に飛躍的な改善がなされたわけではないと思います。現在の導入は、その原因のひとつがパソコンの価格破壊にあるのではないのでしょうか。電子メールは手元にあるパソコンで利用しなければ使う環境にはなりません。以前のように、部署に1~2台のパソコンでは、電子メールの確認のために、わざわざパソコンのあるところに行く必要があります。数少ないパソコンですから空いているとはかぎりませんから、どうしてもということであれば、作業を中断してもらする必要があります。そこまでして電子メールをみる人がどれだけいるものでしょうか。使う環境がなければ使わない。使わないものは導入しない。その様な状況が容易に判断できる状態では導入はされないものです。現在、価格が急激に下がり、1年で4割以上も下がっている状況です。ここまでくれば、社員1~2人に1台の導入があたりまえのように考えられているようになってきています。自分の目の前にあれば、何とか使ってみようとする人もでてきます。まして、回りから電子メールによって情報の交換をおこなうような状態になった場合、使わなければ仕事がやりづらい状況も有り得るわけです。このような状況を目指して、トップダウンで導入され始めたのが、この頃の全社導入電子メールです。

ハードウェアの環境が整い、その導入効果がはっきりとし、業務に必要なものとなれば、電子メールは社内に急速に普及するもの、普及できるものと考えられます。BPRがはやりの言葉となり、電子メールを導入する企業が増えているこの時期は、LANのシステム販売の好機であるように思います。 (次回へ)

(情報誌トピックス)

○経産省レポート 4月3日号

特集 魅力ある情報システムデザイン

「使う人」から発想する新アーキテクチャ

→一人一台の時代になって個人にとって魅力的な情報システムのデザインが最優先となり、企業情報システムの枠組みを根本的に見直されてきている。これまでのように依頼してデータを出してもらっていたシステムから、必要なデータを自分で出せるようになって、勘定系と基幹系の縦割り構造から、1台のパソコンからデータベースを横断的にみられるシステムへと変化している。

- ・縦割りのシステム構造に限界、三位一体モデルが魅力生む
- ・新アーキテクチャを実現する手法、技術、製品
- ・部分的でも大きな効果、現実のシステムで先取り進む

メーカーウォッチング マイクロソフト

N T事業で課題山積み、サポート体制の充実が急務

変革の軌跡 協和醗酵

「開発しない」システム部へ、大胆な組織改造に挑戦

→クライアント・サーバの時代になって、これまでの開発作業中心であったシステム部門を、システム全体のマネジメントを考える集団へと変化させた

○経産省レポート 4月10日号

特集 次世代携帯機器の高密度プリント配線板

→次世代の携帯機器では、プリント配線板の技術が小型化のボトルネックとなり、高密度のビルトアップ基板（層間の接続孔が150 μ m以下、配線ピッチが約150 μ m）が実用になり始めている

1部 <セットメーカーの評価>

高密度化の限界を目前にして、ビルトアップ基板に期待を寄せる

2部 <基板メーカーの取り組み>

先行する日本IBMを追って特性改善、今年から来年にかけて各社が出荷を始める

特集 オブジェクト指向OSの中核技術

→複数のアプリケーションを連携させるOLEとOpenDocはコンピュータの世界に変革をもたらし、複数の文書からアプリケーションを呼び出せるオブジェクト指向のユーザインターフェースとなる

1部 <将来OSへの一里塚>

ドキュメント中心の利用作法と積み木型の開発手法に導く

2部 <技術比較>

複合文書管理やプログラム間通信など、OpenDocが全般的に優れる

インタビュー 米AT&T Director

G I I が社会を変える、DVDでは変わらない

→G I I はゴア副大統領の発表したネットワークを活用して映像をデジタル伝送する社会基盤、DVDはDigital Video Disc

解説 無線通信

米国のPCSは7方式併存で始動

→PCSはパーソナル通信サービスで、居場所に関係なく音声やデータ通信の可能なサービスで、セルラ電話標準に沿った7方式があり、1996年中にもサービスが米国で開始される

講座 コンピュータネットワーク

LANとI/Oチャンネル、マルチメディアの普及で融合へ

→LANとI/Oの境界が曖昧になってきている

解説 始まった液晶パネルの価格低下、増産ラッシュで需給関係が軟化

→急激な生産能力の増強によって高値で安定していたカラー液晶パネルの価格の低下が始まり、STNで400米ドル、TFTで900米ドル程度になっている

○目録ページ 4月10日号

特集 初めて買うパソコン、完全ガイド

機種選びからショップとの交渉方法まで

→低価格の大波が押し寄せている今が購入のチャンス

・5分で学ぶいまどきのパソコン

→購入前に知っておきたい10の知識（CPU、メモリ、HDD、FDD、通信機能、プリインストールソフト、CD-ROM装置、テレビ機能、サウンド機能、ディスプレイの大きさと表示機能）

・プロダクトガイド編

20万円で手に入るお買得機種

ノートPCは省スペース型と割り切る

どうせ買うなら高性能Pentiumマシン

・買い方ガイド編

98・Mac・DOS/Vさてどのパソコンにする？

ソフトがパソコンを選ぶ

最初に揃えるカラープリンタとモデム

1枚目に買うCD-ROM

お店選び・その傾向と対策

ショップへ出掛ける前に読む、5つのヒント

レポート PentiumODPのお買得度を点検する

→オーバードライブプロセッサとしてPentiumODPが加わったが、実用面からDX4（100MHz）などと比較。装着できないパソコンもあり、チェックが必要

レポート PC WORLD誌から

テレビ並みの動画再生機能が急速に普及

→今年中にはフルスクリーンフルモーションのビデオ再生が可能になる

先進ソフトウェア Windows 95用として登場するアプリケーションの操作性を探る

アプリの高速性は確認できないが、操作は快適

プロダクトウォッチ 無停電電源装置

3万円台の製品が続々登場、突然の停電からパソコンを守る

→500VAタイプで、店頭価格35,000

○日経 4月号

特集 加速するPentiumマシン

→Pentium用のチップセット「Triton」が登場し、新メモリへの対応、PCIバスの強化が計られ、その持てる力を発揮し始める

第1部 総論

Pentiumの性能を引き出すチップセットと新メモリが登場

→第3代目のPCIチップセット「Triton」は2次キャッシュ用パイプラインバーストSRAMと主記憶用のEDO DRAMをサポートし、Pentiumのボトルネックを解消した

第2部 メモリ

変わる主記憶用メモリ、主流はEDOへ

→EDOは従来のDRAMより連続データ転送時のサイクル時間が15ns程度と短く、これによりPentiumのウェイトを減らすことができる

第3部 PCIローカルバス

マルチメディアに備えて、PCIバスを極限まで高速化

→TritonはPCIバスの転送速度も上げ、実効転送速度は100数十Mバイト/秒と従来の2倍近く、マルチメディアに対応できる

第4部 ベンチマーク

Triton搭載機をテスト、Pentiumの限界に接近

トレンド Windows NTの登場で正念場を迎えたノベル

→将来を見据えたときNetWareの必然性は薄れてきている。ノベルは長期的・総合的なビジョンを提示すべき時期にきている

解説 WindowsがゲームOSになる日

→家庭向マルチメディア機の普及とWindows 95の登場、Wingによって、Windowsは巨大なゲームプラットフォームと化す

○DOS/V magazine 4/15日号

特集 平成7年 春の導入研修

Overview DOS/V時代のマシン選び

第0章 平成7年DOS/Vマシン購入の心得

第1章 自作かショップかメーカーか？コスト&パフォーマンスを検証する

第2章 カタログ・マニュアルを読破するための全知識

第3章 買ってから差がつく“環境”

特集 OS / 2 Warp V3 レポート

- ・Warpが目指す32ビットOSの世界
- ・OS / 2 Warp V3 日本語版のためのハードウェア
- ・謎の無印互換機に導入してみる
- ・Warpの優れた操作性
- ・システムの改善
- ・充実のボーナスパック
- ・Warpのフォント環境
- ・Warpのマルチメディアアプリケーション
- ・OS / 2 Warp V3 は買いか

○PCWAVE 5月号

特集 Enhanced IDEとFast / Wide SCSI

→パソコンの速さの中で体感速度を左右するのがHDのスピード。現在のIDEとSCSIの最先端について解説

Part1 IDEとSCSIの歩みと、その近未来

Part2 Fast / Wide SCSI - 2 インターフェースカードをテストする

Part3 Enhanced IDE規格の基礎知識

Part4 Enhanced IDE対応ハードディスクをテストする

Topics 軽量・コンパクトな「MD」は次世代のデータストレージの主役たりうるか？
ソニー「MDM-111」と「MDH-10」

→2.5インチ140MBのメディアの実力は

Topics 「P6」のアーキテクチャとインテルの戦略

→Pentiumの2倍のパフォーマンスを持つというP6のアーキテクチャと高速性の秘密について

○LAN TIME 5月号

特集 少し速いネットワークをつくる

→外部との接続にATMがブームのようにになっているけれども、内部のLANをストレスなく使うためには、どのようにすればよいか。NetWareサーバのキャッシングの設定と高速イーサネットについて解説

Part1 NetWareサーバを最適化する

→ファイルキャッシュとディレクトリキャッシュの内容と最適な設定方法についての解説

Part2 ネットワークをグレードアップする

→100MbpsのEthernet LANについての解説と10Mbpsとの混在について

トレンドレポート 分散コンピューティングを実現するネットワーク技術

→これまでのC/Sシステムは分散環境の信頼性に対する不安が払拭される事はなく、基幹業務のC/Sシステムへの以降は未だに懐疑的な見方がつきまとっているが、最新技術は非集中型のネットワーク構築を可能にするとともに、信頼性のあるネットワークの構築を可能にする。

Buyer's Guide メッセージ交換でのオープン性高まる - LAN対応電子メール

→一般OAツールとしての市民権を得た電子メールも、企業間コミュニケーションのインフラとしてLAN活性化の力を秘め、モバイルコンピューティングの可能性を広げ、また各ゲートウェイサービスによってシステム間の壁を越えられるようになってさらにその価値を高めていく